

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部



令和八年七月度 入賞句一覧

投句数 五百四十句

特選

田中 青志 選

殻を脱ぐ勇氣を持てず蝸牛

大垣市 野村 尚子

勇氣とは、恐れないで向かっていく強い氣力を言います。しかし、記述の「持てず」ではその氣力以前の状態、力不足から一歩引く姿勢、消極的な姿勢と読み取れます。読者から言えば、勇氣を持つとう、であつてほしいと思いますが、作者もきつとそうであることを期待します。

元氣よく日傘くるくる登下校

大垣市 安藤 弘誓

登校日に日傘？不思議に思います。氣温が四十度を超える時があり、それを酷暑日と呼称する氣象現象がそうさせたようですが、昭和世代には考えられないこととです。でも、元氣は子どもたちの特権。日傘をくるくる回しながらの登下校もまた楽しからずやなのです。

廃屋の屋根に夏草過疎の村

不破郡垂井町 竹嶋 富美子

過疎の村だけではなく、都会でもある現象に憂慮するばかり。人口減少、高齢化、少子化：原因はさまざまです。廃屋を利用する策など、過疎からの脱却も図られているようですが、即効薬はなさそうです。

秀逸

つばめの子親待つ口の大きさよ

東京都狛江市 椎野 一恵

風薫る千木に光の集まれり

養老郡養老町 田中 紫香

頑固さが肩のあたりに更衣

東京都世田谷区 関戸 信治

別人になれたつもりのサングラス

東京都新宿区 花澤 ちいこ

葉桜や古き村の名碑に

大垣市 平野 きぬよ

合歓の花夕やけ小やけのチャイム音

大垣市 安田 むつこ

登り来る修験者の法螺滝開き

不破郡垂井町 竹嶋 富美子

胡瓜もみ身の丈越さぬ暮しぶり

兵庫県神戸市 岸下 庄二

緑陰を天蓋とする乳母車

三重県四日市市 後藤 允孝

手を振つて子は噴水の向こうから

神奈川県横浜市 龍野 ひろし

入選

千枚田子等も手伝ふ虫送り

大垣市

平野 きぬよ

なみなみと早苗の揺籃水張田

大垣市

竹中 美穂子

田植機走りあつという間の植田かな

揖斐郡池田町

松田 桂子

ハリヨ棲む湧水ゆれて夏の空

不破郡垂井町

中嶋 結映

廃校に止まぬ輪唱夏蛙

揖斐郡池田町

小川 智恵子

花筏そのまま桑名へと下る

千葉県千葉市

広渡 敬雄

思ひ出の合歓の並木を肩寄せて

大垣市

平野 順一

公園の木椅子新らし日向ぼこ

大垣市

後藤 喜美男

大夕焼水に残して沈みをり

大垣市

松岡 みつ

朝日浴びきらきら光る蜘蛛の糸

安八郡神戸町

早津 郁男

蟻の列横歩きするランドセル

揖斐郡揖斐川町

栗野 みねお

張れるだけ翼を張って夏燕

大阪府東大阪市

森 佳月

薫風や試合開始のホイッスル

三重県四日市市

藤田 勝民

暑い夏芭蕉に水を差し上げる

愛知県名古屋市

堀田 芭蕉

サングラス口で笑って目で叱る

大阪府堺市

棕本 望生

選者吟

黒板に笑ふ太陽夏休み

青志



一般の部